



2024年12月期
第1四半期 決算説明資料

株式会社イーエムネットジャパン
2024年5月15日

CONTENTS

01

エグゼクティブサマリー

02

第1四半期決算概要

03

KPI

01

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー：2024年12月期 第1四半期

営業収益（売上高）

3.33億円

前期に続き広告媒体からの
受託業務縮小の影響により

前期比△10.8%

営業利益

0.08億円

営業収益減少の影響により

前期比△85.9%

エグゼクティブサマリー : Topics

ポケットーク株式会社との資本業務提携

- ✓ 同社は「言葉の壁をなくす」をミッションに掲げ、携帯型翻訳デバイス「POKETALK（ポケットーク）」やAI同時通訳「ポケットーク カンファレンス」等を展開
- ✓ 本提携により、当社はデジタル広告、新たなECサイトへの公式ショップの新規出店、アジア各国でのECサイトでの販売等、国内外の新たな市場や顧客の開拓を支援

株式会社ジーニーとの包括的業務提携

- ✓ 同社は、広告プラットフォーム事業やマーケティングSaaS事業、各事業でのAI連携機能の開発を通じて、マーケティングDXを支援する先進技術企業
- ✓ 本提携により、顧客の相互送客を図り、当社は同社のプロダクトを活用することで顧客のマーケティング課題を総合的に解決し、顧客のビジネス成長を支援

02

第1四半期 決算概要

前第1四半期比

前期に引き続き広告媒体からの受託業務の縮小により減収減益

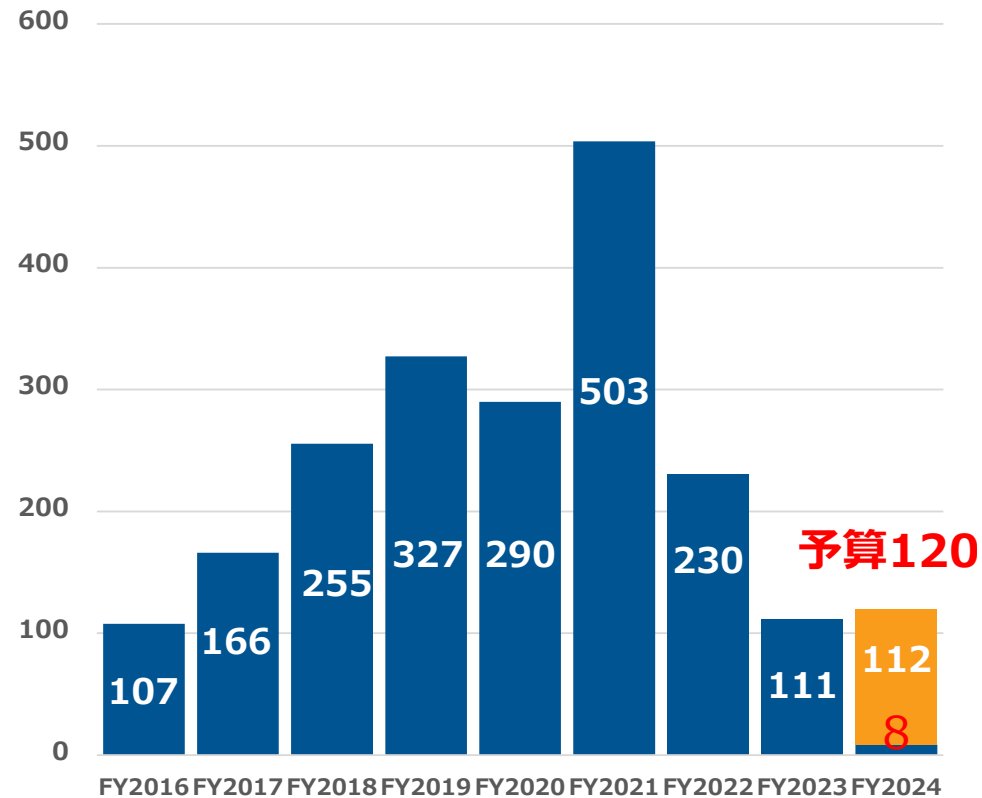
前第1四半期期比				
(百万円)	2023年12月期 第1四半期	2024年12月期 第1四半期	増減	増減率
営業収益 (売上高)	373	333	△40	△10.8%
営業利益	60	8	△52	△85.9%
経常利益	62	11	△51	△81.1%
当期純利益	39	3	△36	△90.8%

営業利益 推移

前期比減益ではあるが、概ね第1四半期の業績予想どおり推移

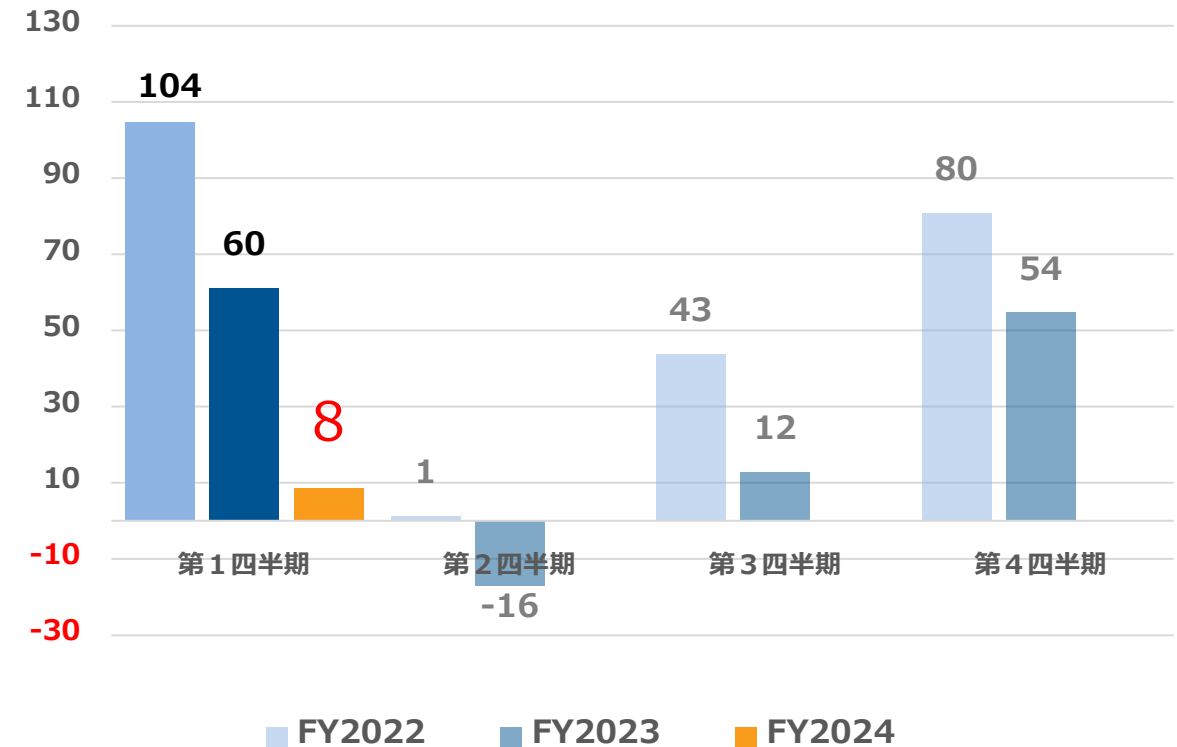
営業利益 推移

単位：百万円



四半期営業利益 (各3ヵ月)

単位：百万円

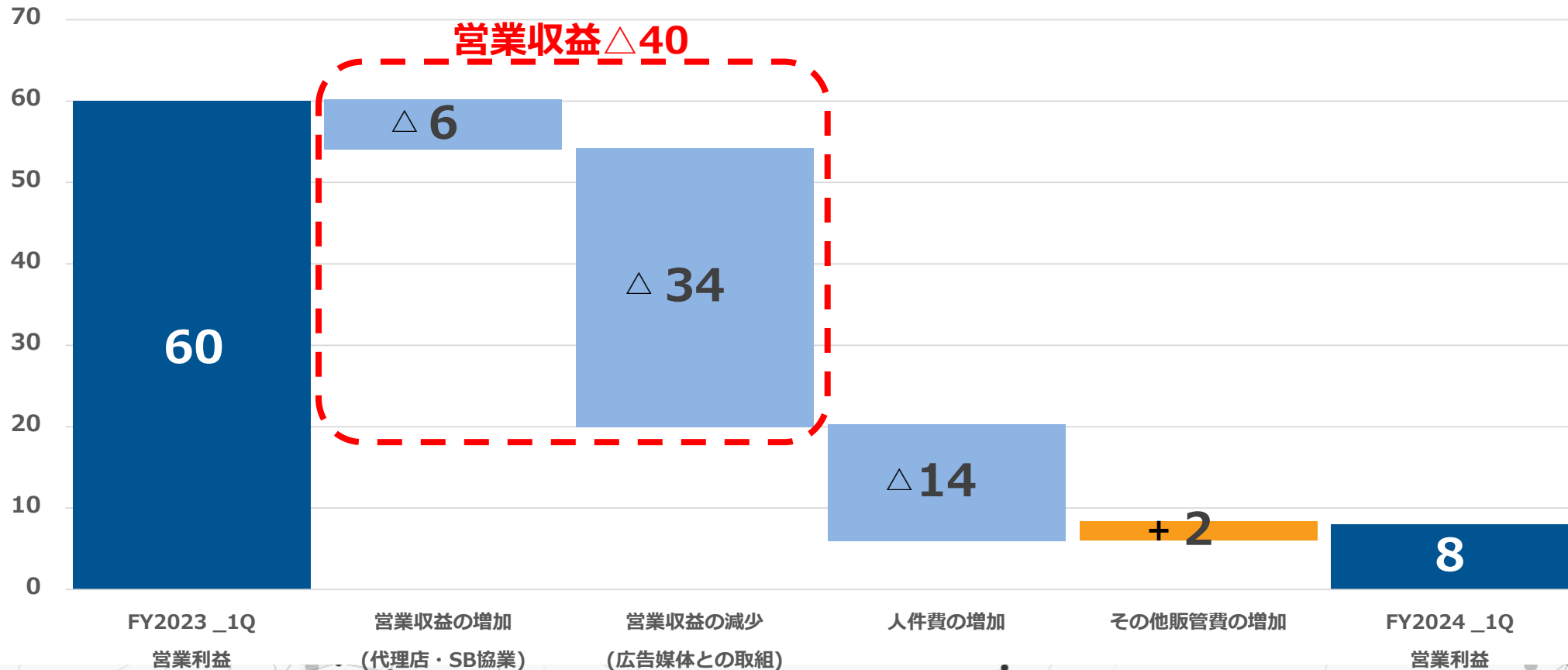


営業利益の増減要因（前第1四半期比）

減収(前期比△40百万円)と社員数増加による人件費増加が減益の主な要因

営業利益 増減要因分析（前第1四半期比）

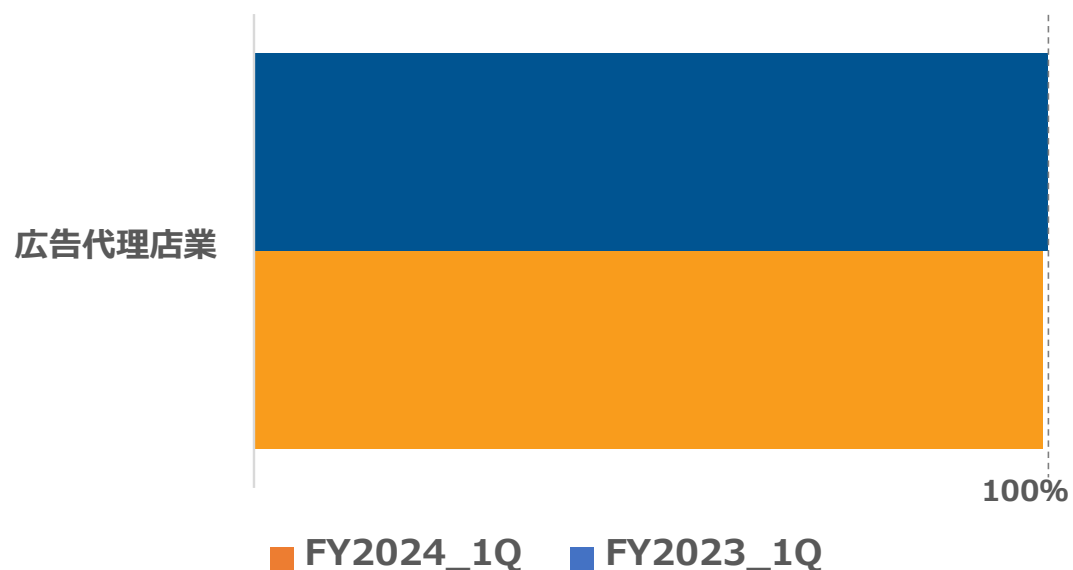
単位：百万円



事業別営業収益の増減（広告代理店業）

毎年3月頃の予算消化にともなう広告受注が低調の為、前期比横ばい

広告代理店業 営業収益 増減（前第1四半期比）



1Q 概況

- ✓ 毎年期末(3月)に獲得していた広告予算の消化案件について、今期は受注が低調。その為、前1Qと同水準で推移
- ✓ 一方で、解約の抑止に注力しており、前1Qと比較し約6割の水準まで抑止

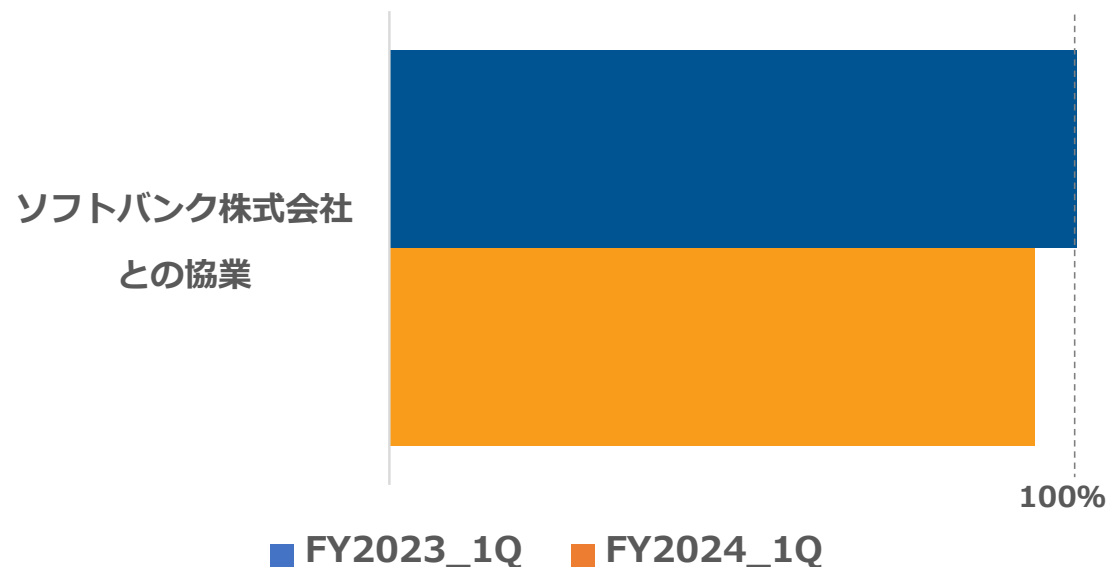
今後の 見通し

- ✓ 引き続き解約抑止に注力しつつ、月額広告予算が数百万円規模の案件獲得に向けて新規営業を強化
- ✓ 3月にリリースした生成AIを利用した支援サービス等の新サービスの展開
- ✓ 本日公表の業務提携を通じた新規顧客へのアプローチ、新サービスの展開（業績見通しには未反映）

事業別営業収益の増減（ソフトバンク株式会社との協業）

前1Qの特需のリバウンドで営業収益は微減も業績見通しは上回って推移

ソフトバンク株式会社との協業 営業収益 増減（前第1四半期比）



1Q概況

- ✓ 前1Qは昨年3月に開催された国際的なスポーツイベントに関する広告特需があった影響で、当1Qの営業収益は微減
- ✓ 当1Qの業績見通しは上回って推移
- ✓ 協業案件について、これまでと比較して広告予算の大型化（大型案件の受注）の傾向

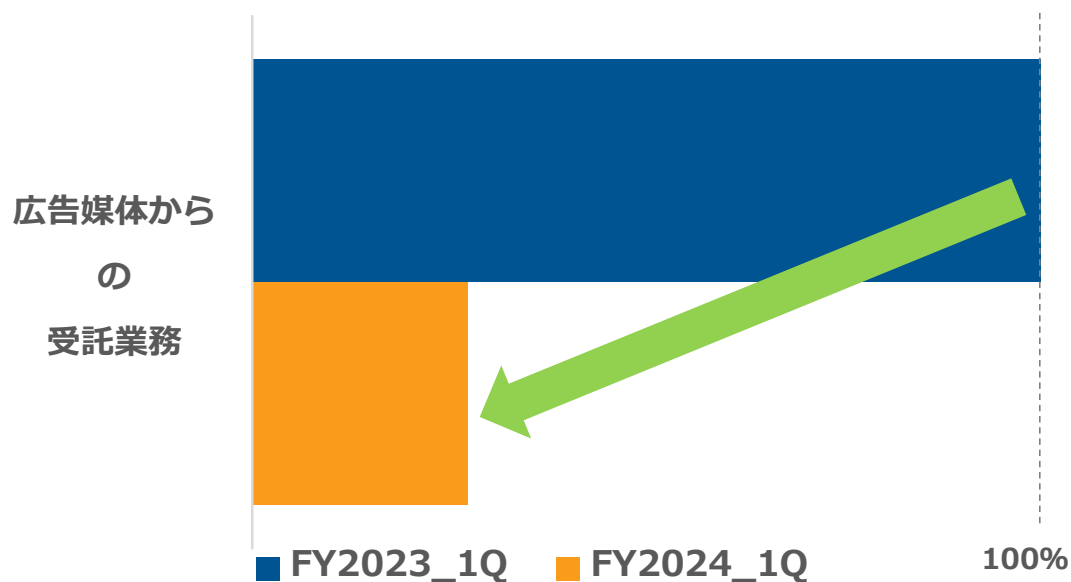
今後の見通し

- ✓ 4月から組織体制の強化により、引き続き協業を強化・拡大に向けて進行
- ✓ 当期の2Qは、前2Q期を上回る水準で推移する見通し

事業別営業収益の増減（広告媒体からの受託業務）

前期に続き受託業務の縮小による減収

広告媒体からの受託業務 営業収益 増減（前第1四半期比）



1 Q
概況

- ✓ 前期に続き当1Qは、受託業務の縮小により減収
- ✓ 一方で、前4Q比からは同水準で推移

今後の見通し

- ✓ 前2Q以降、当1Qまで月次の受注額は同水準で推移。
- ✓ その為、当期の2Q以降は前年同期比で大幅な減収は見込んでいない。（受託業務の縮小による影響は当1Qで収束の見通し）

貸借対照表

自己資本比率51.8%(前期末比+3.8%)と安定的な財政状態を維持

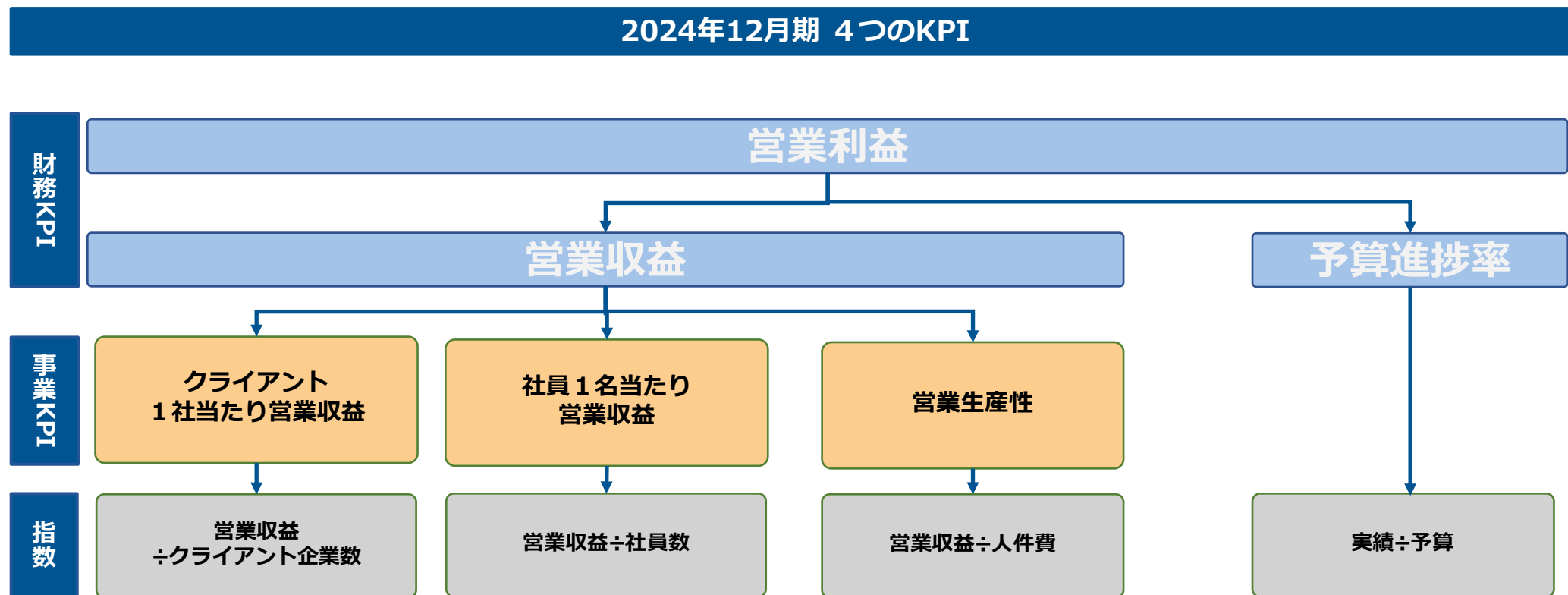
(百万円)	前期末	当第1四半期末	前期末比
流動資産	2,710	2,422	△288
内 現預金	1,416	1,286	△130
固定資産	303	312	+9
資産合計	3,013	2,734	△279
流動負債	1,417	1,157	△260
固定負債	144	159	+15
負債合計	1,561	1,317	△244
純資産	1,451	1,417	△34
負債・純資産合計	3,013	2,734	△279
(自己資本比率)	48.0%	51.8%	



03
KPI

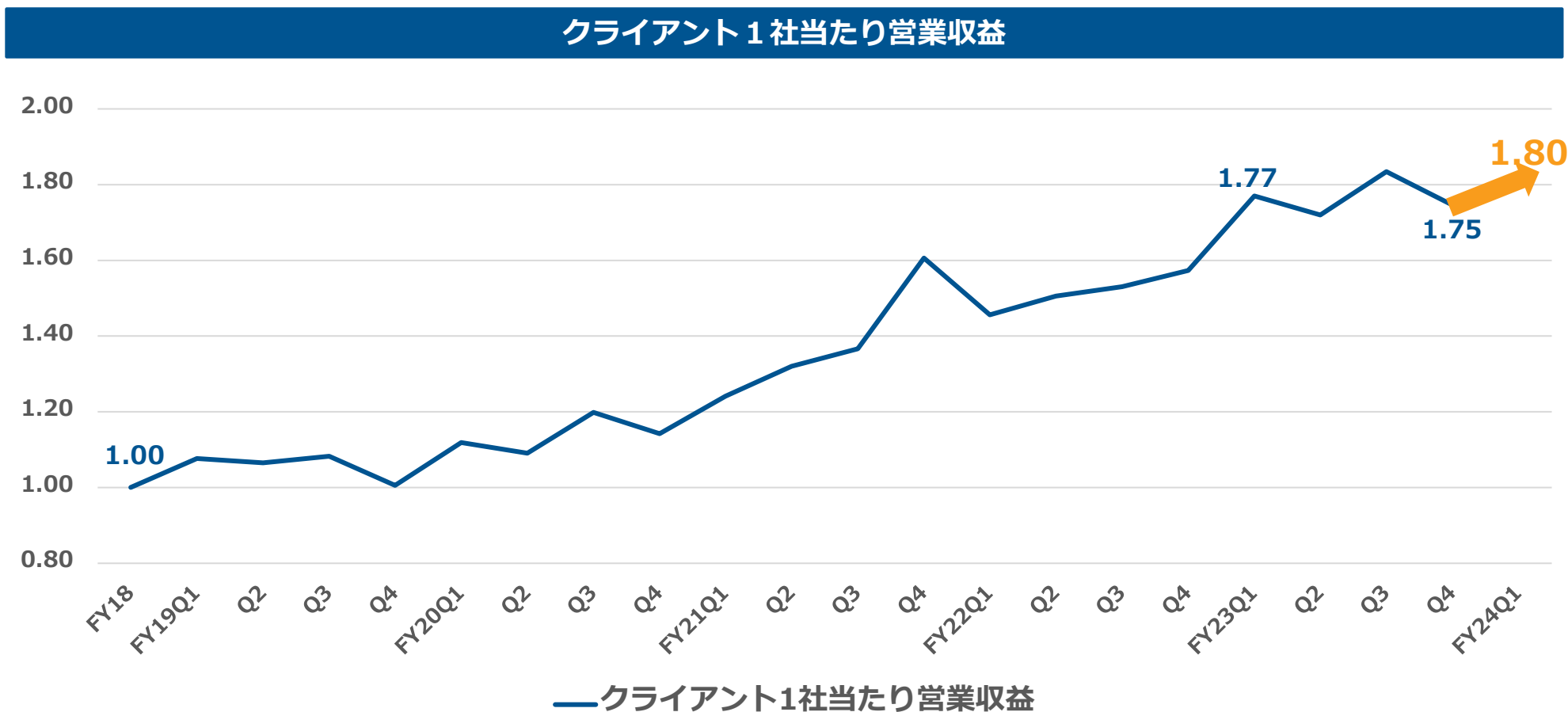
KPI

前期から継続して4つのKPIを設定



KPI－クライアント1社当たり営業収益

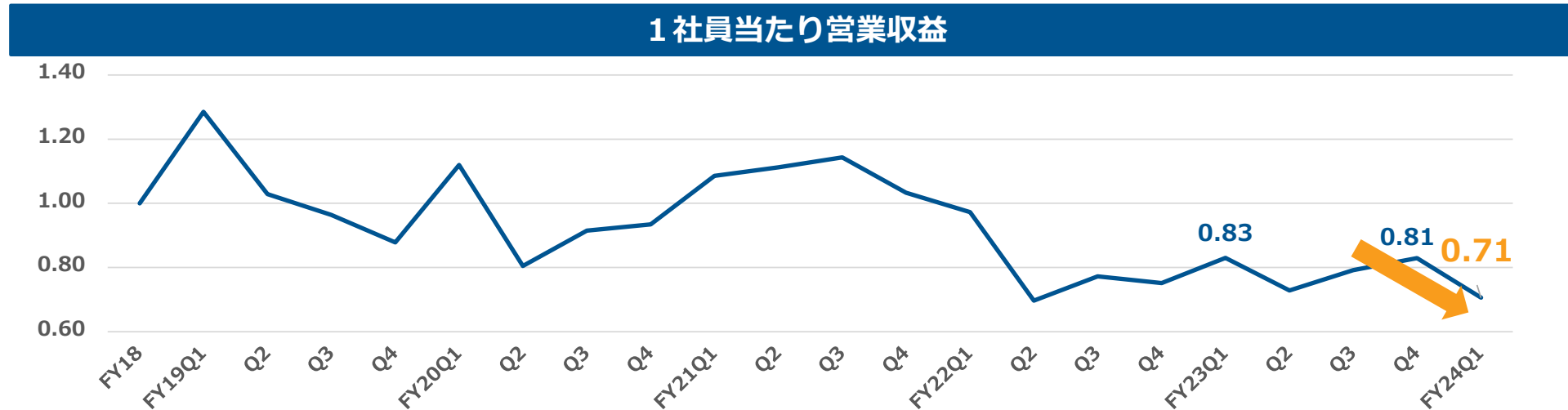
広告予算の中大型案件獲得や案件獲得後の予算増加により1.8まで上昇



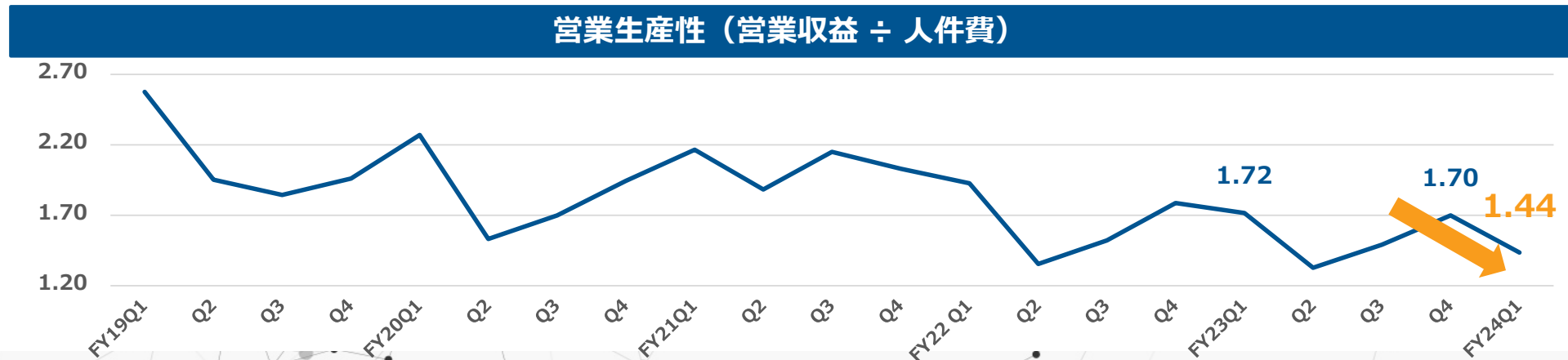
(注) 2018年度の各四半期を基準値「1.00」として各年度の各四半期の指数を算定

KPI – 1 社員当たり営業収益・営業生産性

前4Q(繁忙期)からのリバウンドで両KPIともに低下



(注) 2022年12月期の第4四半期よりソフトバンク株式会社への出向社員が増加したことにもとない、以降、出向社員を除いて算定



本資料に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料には、監査法人による会計監査や四半期レビューを受けていない情報が一部記載されています。

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づき判断したものであります。そのためマクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

